Rubus Yatabei FOCKE ト R. medius O. KUNTZE.

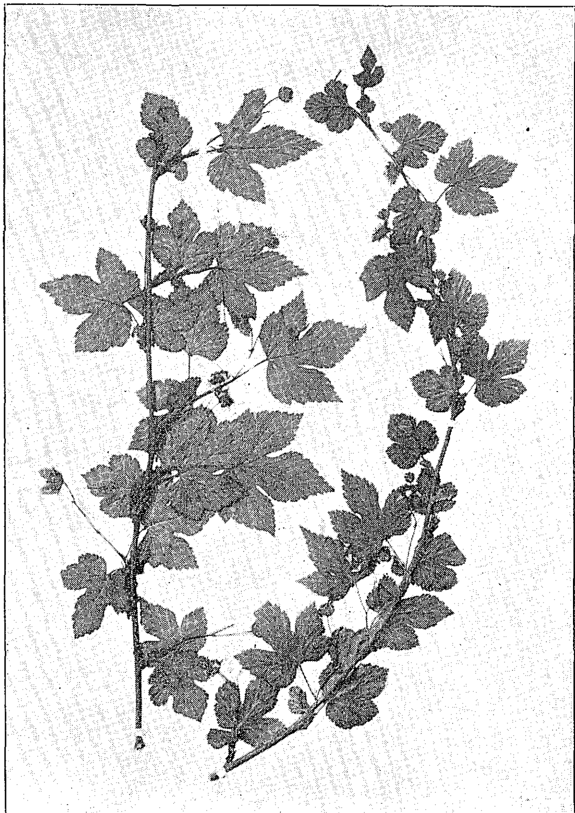
久 内 清 孝

Kiyotaka HISAUCHI: **Rubus Yatabei FOCKE and R. medius O. KUNTZE.**

余ハひめかぢいちご卽 Rubus medius O. KUNTZE ノ種名ノ下ニ總括サレテ居ルモノニ二形ガアリ且ツ其差ガ若干注意ニ價スルコトヲ指摘シテ見タイノデアル。云フ迄モナク現在我々ガコノ名稱ニヨリ知ツテ居ル所ノモノハ余ガ本誌第6卷第10號ニ於テ今尙東京澁谷區北谷町ノ一部ニ存在シテ居ルト報ジタモノデ (Fig. 1a) 之ガマタ東大植物學教室ニ保存サレテ居テ(J. MATSUMURA 目黑 15・5 1881) ノ名籤ヲ貼付シアルモノト全ク同一ノモノデアル。然シテコノ東大標本ハ小泉源一博士ガ1913年ニ Conspectus Rosacearum Japonicarum p. 111 ニ此名デ記載サレタモノデ、マタ FOCKE ガ Rubus Yatabei ト命名シタモノヽ co-type ニ相當スルモノト信ゼラレル。

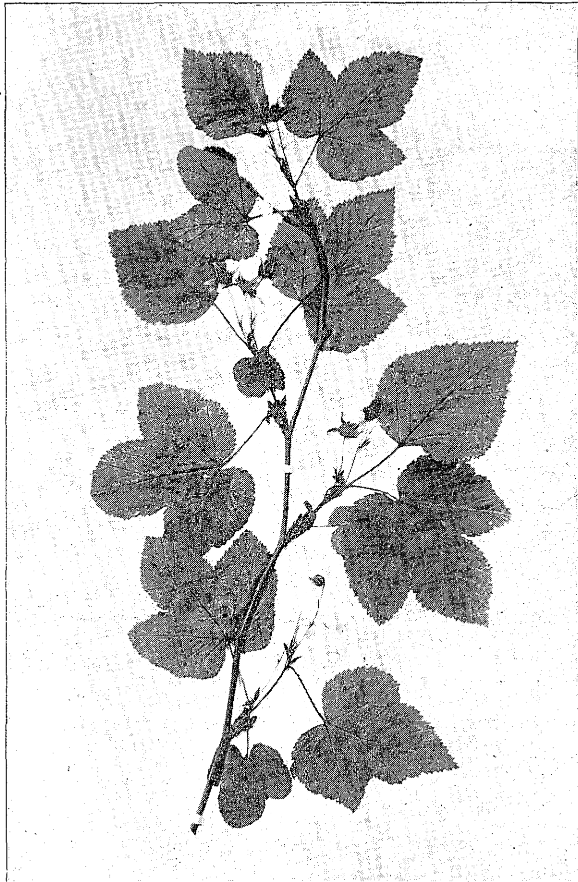
然シテ之ニ似テ居テ伊豆下田、相模眞鶴岬ノ林中ニ自生スル (Fig. 2a) ノ如キモノガアツテ之モマタ R. medius ニナツテ居ル。

此兩者ハ槪形相通ジ花枝ニテ其異同ヲ辨別スルコトハ烏ノ雌雄ヲ辨ズル程デハナイニシテモ相當ナ困難ヲ觀察者ニ要求セズニハ居ナイ。然シナガラ (Fig. 1b 2b) ヲ一見スルトキハ自



(Fig. 1 a.) 東京澁谷產ノモノヽ花枝

明ノ如ク其相違ガカナリ判然トシテ居ル。即前者ハ中央裂片ガ特ニ他ノ裂片ヨリモ發達シ且ツ尖端漸尖シ其基部ハヤヽ狹長ニナリ各裂片ノ鋸齒ハ不規則ニシテ小泉博士ノ所謂 inaequaliter argute subduplicato-serratis ニ合致シ更ニ Focke ガ R. Yatabei ノ記載中ニ用ヒタルinaequaliter serrata ノ感ジヲモヨク表現シテ居ル上ニ托葉ハ Focke ノ云フ通リ線形(1.1cm×2mm) デアル。



(Fig 2 a.) 東京澁谷産ノモノヽ初年莖ノ頂部

然ルニ眞鶴・下田産ノモノニアリテハ各裂片殆ンド同長ニシテ丸味ヲ帶ビ中央片ノ基部ハ狹長デナク、邊縁ニ於ケル鋸齒ハ前者ニ比シヤヽ整然トシテ居テ細イ。マダ述ベタイコトガアルガ其レヲ省略シテモ尚如上ノ相違ガアル。

更ニ花ニツイテ見ルニ前者ハ花托ノ高サヨリモ雄蘂ガ長ク葯ハ淡綠デアルノニ後者ハ雄蘂ノ方ガ短カク且ツ葯隔 (connectivum) ガ紅色ヲ呈シテ居ル。

莖ハ前者ハ14-5尺ニモ達スルガ後者デハ其三分ノ二程度デヨク斜上スル。シカシナガラ枝ノ頂部デ花ノ着ク部分デハ兩者共葉ノ大小、形狀區々デ時々辨裂セザル楕圓形葉ガ發現スル。

ソコデコノ二者ヲ區別シ得ル可能性――種トシテデモ品種トシテデモ――ガアリトスレバ次ニ學名ノ取捨ヲ考ヘテ見タクナル。命名ノ年代カラ云ヘバ

Rubbus medius O. KUNTZ. ハ 1879 デアルガ Methodik der species beschreibung und Rubus p. 95 ノ記事ハ記載ニナツテ居ナイカラ小泉博士ノ Conspectus Rosacearum Japonicarum p. 111 (1913) ノ記事デ始メテ有效ニナツタモノト考ヘラレル。ソレナラ此植物 (Fig. 1a) ヲ誰ガ最初ニ Rubus medius O. KUNTZE ニ充テタカト言フニソレハ言フ迄モナク東京植物學雜誌第15卷 p. 158 デ故松村先生ガ Hab. in Japonia media circa urbem Tōkyō ト記サレタノニヨルノデアラウ。シカシナガラ R. medius ハ



(Fig 1b.) 相州眞鶴產ノモノヽ花枝

前記 O. KUNTZE ノ文中ニ Savatier sammelte sie im mittleren Nippon 云々ト述ベテ居ル通リ中部日本デ SAVATIER ノ採集ニカヽルモノデアツテ松村先生ヤ小泉博士ガ R. medius ト思ハレタモノハ恐ラク松村先生ガ 1881 年ニ東京目黑デ採ラレタモノデナケレバナルマイ。現ニ其標本ハ前述ノ通リ東大ニ保存サレテ居ル。シカシ此標本ト FOCKE ガ Annuaire de Conservatoire et du Jardin Botanique de Geneve(1917) ニ R. Yatabei FOCKE トシテ發表シタモノトハ同一デアルコトハ標本ノ名箋ニ記サレタ事實ト FOCKE ノ記事トガ同一デアルノデ判ル、從ツテ O. KUNTZE ノ植物ト FOCKE ノ植物トハ品物ガ別デアルバカリデナク採集者モ產地モ別ナモノデアツテ松村先生ニヨリ R. medius ト認メラレ小泉博士ニヨリ其名ノ下ニ記サレタモノハ實ハ FOCKE ノ R. Yatabei

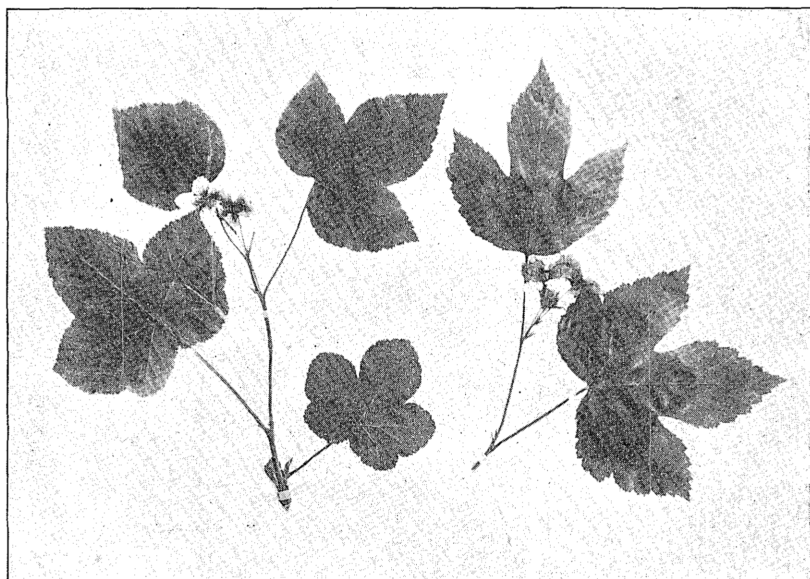
(Fig. 1a) デアツタノデアル。 其故吾人ニハ R. medius ノ本體ハマダ確實ニ判ツテ居ナイ様ニ思ハレルノデアルガ今假ニ憶斷ヲ下シテ見レバ或ハ (Fig. 2a) ガソレデハナカラウカト云フコトニナルガ別ニ證據ガアルノデハナク SAVATIER ガ横須賀ニ居タコトト現在三浦半島ニ近接セル眞鶴岬ニ存在スルカラデアル。



(Fig. 2b.) 相州眞鶴産ノモノヽ初年莖ノ頂部

之ヲ要スルニ (Fig. 1a,b) ハ **R. Yatabei** FOCKE デ 1881 年五月十五日 (FOCKE ノ文中ニハ YATABE leg. 10 Maj. 1881 トアル) ニ目黒デ松村先生ガ採集サレタモノデ東大所藏ノモノハ其 co-type デアルノミナラズ小泉博士ガ R. medius トシテ記載シタモノデアル。然シテ (Fig. 2a,b) ハ未知ノモノカ或ハ R. medius カモ知レナイモノデアツテ私ニハ學名ノ判ラナイモノデアルガ兎ニ角 (Fig. 1a,b) トハ何程カ區別シナケレバナラナイモノデアル。(コノ問題ニ就テハ追テ述ベタイト思フ)。

尚小生ガ小泉博士ヨリ頂イタ玉章ニヨレバ博士ハ FOCKE ノ標本ヲ見ラレナカツタ由デアルガ若シ見ラレタナラ小生如キ末輩ハ何モ言フ必要ハナカツタノデアル。終リニ文献、標本ノ閲覽ニ便宜ヲ與ヘラレタ中井博士、示教ヲ賜ツタ小泉博士ニ感謝ノ意ヲ表ス。



(Fig. 3.) 右 (Fig. 1) ノ花枝 左 (Fig. 2) ノ花枝

日本産かんあふひ類解說 (其三)

前川文夫

F. MAEKAWA: **Japanese Asaraceæ III**

今度ハ今迄ト大分掛離レタモノ二ツヲ擧ゲテ見ヤウ。ソレハさかはさいしんトとさのあふひ(新稱)トデアル。彼等ノ花ニアツテハ蕚筒ト舷部トノ間ガ非常ニ括レテ居ル事ヤ花柱ガ完全ニ6個ニ分立シテ居テソノ頂上ニ柱頭ノアル事等デこばなかんあふひ節 (Sect. *Aschidasarum*) ノモノニ近イガ、ソノ異點トスル所ハ後者デハ蕚筒內ニハツキリト網狀隆起ヲ具フルニ反シ、前者デハ縱ノ隆起脈ガ走ツテ居ルダケデアル。かんあふひ類ニアツテハ、蕚筒內ノ隆起ノ有無並ビニ形式ハ分類上ノ重要ナ標徵デアルカラ、コノ點ニ重點ヲ置イテ私ハ一新節さかはさいしん節 (Sect. **Sakawanæ** sect. nov. p. 179) ヲ建テル。

6) **佐川(さかは)さいしん** (牧野博士 1895)

Heterotropa sakawana (MAKINO) F. MAEKAWA comb. nov.

Syn. *Asarum sakawanum* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo, IX:[260] (1895) (nom. seminud.)—l. c. XV: 33 (1901).